

1. 件名：「東通原子力発電所1号炉の地震等に係る新規規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（75）」

2. 日時：令和3年10月21日（木）13時25分～15時05分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者

原子力規制庁 原子力規制部 地震・津波審査部門：

岩田安全管理調査官、三井上席安全審査官、中村主任安全審査官、佐藤主任安全審査官、永井主任安全審査官、大井安全審査専門職、松末技術参与、

原子力規制庁 長官官房技術基盤グループ 地震・津波研究部門：

杉野首席技術研究調査官、道口主任技術研究調査官

東北電力株式会社 発電・販売カンパニー 土木建築部 部長 他5名※

土木建築部 部長 及び 東京支社 課長※

※テレビ会議システムによる出席

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

- ・東通原子力発電所1号炉 コメントリスト(地震・津波関係)：審査会合
- ・東通原子力発電所 基準津波の策定のうち「十勝沖・根室沖から岩手県沖北部の連動型地震」に起因する津波の評価について（コメント回答）
- ・東通原子力発電所 基準津波の策定のうち「津波地震」,「海洋プレート内地震」等に起因する津波の評価について(コメント回答)
- ・東通原子力発電所 基準津波の策定について(コメント回答)(補足説明資料)

時間	自動文字起こし結果
0:00:00	提出していただいておりますけれども、実はこれ我々の中でも少し議論をさせていただいて、コメント回答のうちですね、いわゆる地震以外の津波なんかについてもですね評価をしていただいて、あと地震以外アンチすいません地震起因の津波との組み合わせについても今回非常の中で書いていただいて、
0:00:18	あと、それらはですね今回初出しでもあって、次回の我々のイメージしてる審査会合ここまでをまずはお話を聞かせていただいた上で、
0:00:30	その上で基準津波の策定についての議論をしたいと考えてございます。従って本日はですね、基準津波の策定のところの説明というのは別にさせていただくというのが1点。
0:00:41	あともう一つコメント回答の所いくつか分冊になっておりますけれども、今次回の審査会合に向けてはですね、これらをパッケージとして一つの資料として整理をしていただいて、基準津波の手前までの資料をつくっていただいて御説明いただきたいとこのように考えてございます。
0:00:57	まずはこちらの
0:01:00	発言なんですけれども、中身理解いただけただでしょうか。
0:01:04	東北電力の小林でございます。承知いたしました。
0:01:10	はい、ありがとうございます。そうしましたらですね、まず資料の説明をお願いいたします。
0:01:17	はい、コバヤシでございます。本日もよろしくお願いいいたします。オオイでは資料のほうは連動型地震についていただいた7月9日の審査会合でいただいたコメントへの回答。
0:01:33	それから、連動型地震以外に起因する津波、それから頂上などについてまとめたもの、この2点について御説明をさせていただくとで基準津波についてはまた次のステップでの
0:01:49	御説明ということで分けさせていただきたいと思えます。本題に入る前なんです、あと前回のラップアップの面談内陸地殻内地震のですね、ご確認いただきましたコメント。
0:02:07	幾つかございますけれども、これについて、事前に資料はお送りして修正したものをお送りしてはいるんですが、コメント等ございましたら、コメントいただければと思えますがいかがでしょうか。
0:02:24	こちらの御確認が済んでから本題に入らせていただきたいと思いますがいかがでしょうか。
0:02:31	はい、規制庁サトウですけれども特にコメントはございません。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:02:37	はい、承知いたしました。では津浪のほうの本題に入りたいと思います。では説明はカンノの方からよろしくお願いいたします。
0:02:46	はい。東北電力の加納でございます。それでは右肩 4 部作の罪右肩に減った打ってございますけれども、本日は、96 番の資料連動型のコメント回答、続きまして 97 番の連動型以外のコメント回答。
0:03:02	あと、99 番の補足説明資料のこの 3 セットで説明させていただきます。それではまず連動型地震のコメント回答資料 96 番の 1 ページ目をお願いいたします。
0:03:17	連動型つき関係のコメントにつきましては、前回 7 月のコメント回答を審査会合で二つのコメントをいただいております S-200 につきましては、平沼雨森付近で部分的に内閣府の想定津波群の津波高さが大きくなる要因について説明すること。
0:03:37	月に 101 番としまして、内閣府のモデル化手法の考え方の取り扱い、また、津波高を比較することの位置付けについてといったことについて説明することといったことに関して回答いたします。
0:03:52	それでは 5 ページ目、お願いいたします。
0:03:56	本資料につきましては目次でございますけれども、これまで御しご審議いただいた箇所ではなくて本日の御説明の範囲である 6 評価の妥当性確認といったところだけを抜粋してございます。あと先ほどイワタさんのほうからありました通りこの資料の
0:04:15	本につきましてはパッケージとしては、構成は改めてです。
0:04:19	させていただきます。それはこの資料の 15 ページ目、お願いいたします。
0:04:28	19 ページ目からは内閣府のモデルに関する分析といったところになります前回審査会合におきまして、これからこの範囲の資料につけば、続きましては前回補足説明資料のほうに記載しておりましたが、
0:04:43	本資料のほうに 1 位移動といったことにしてございます。なので内容的には前回の審査会合からの変更点はございませんが、15 ページ目につきましては内閣府モデルの分析の検討方針といったところを記載してございます。
0:04:59	16 ページ目につきましては、M9 クラスの巨大地震の各パラメーター特に平均応力降下量と比較して内閣府モデルはどういった位置付けにあるのかといったことの説明で 17 ページ目につきましては Murotani のスケーリング則に照らし合わせたときに内閣がどういうふうな位置付けに
0:05:18	あと、そういったところについて前回審査会合の資料を本資料に持ってきてございます。
0:05:24	これらを踏まえまして 18 ページ目、コメント回答になりますけれども、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:05:29	2 ポチ目ですね。
0:05:31	検討の結果、内閣府によるモデルにつきましてはそのモデル設定の特性から過去に発生した巨大地震の平均応力降下量を大きくある丸とともに、スケーリング則からも大きく外れることを確認いたしました。
0:05:45	以上から基準津波の策定にあたっては、内閣府による滑り量などのモデル化の処方が考慮せず、行政機関による既往評価と位置付けて内閣府のモデルによって評価される津波水位との比較を行うというふうに整理させていただいております。
0:06:02	以上がS201 への回答となります。
0:06:06	それではこの資料の 22 ページ目、お願いいたします。
0:06:12	22 億につきましては、連動型地震と内閣府の想定津波の比較の資料になります、右下にカラフルな折れ線グラフがございますけれども、見づらいて恐縮ですが、黒い実線が 0° 連動型地震の想定津波群、
0:06:29	赤い実線が内閣府の想定津波群になりますけれども、日本のほうの平沼雨森付近において、この赤い実線が黒い実線連動型地震よりも上回っている要因について分析するようといったコメントに対する回答となります。
0:06:46	なお、前回審査会合のところから一部追加しているのがございまして、紫の点線が特性化モデル①の想定津波群となっております。
0:06:57	スギノほか 2014 年の知見も踏まえたモデルによる想定津波群ですが、これを追加しました。
0:07:04	結果赤い実線の内閣想定内閣の想定津波群とほぼ同等であるといったこと、またイベント堆積物を概ね上回るといったところは確認してございます。
0:07:17	それではコメント回答になりますけれども、
0:07:19	資料No.99、補足説明資料のほうに移らせていただきます補足説明資料の 9 ページ目、お願いいたします。
0:07:36	今回にその分析の仕方ですが、文書に青梅内閣府モデルのあんまり警報機に破壊開始した設定係数並びに岩手県沖に破壊開始点を設定ケースしたもの、それと連動型地震の想定津波群に支配的な
0:07:54	基準断層モデル①を対象に津波の伝播特性、スナップショットと青森県沿岸の津波高水位時刻歴発見の比較から分析してございます。
0:08:06	10 ページもお願いいたします。
0:08:09	まず、内閣府による津波波源モデルの伝播特性といったところを分析してございます。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:08:14	左の右上に白い四角の枠を御含みでありますけれども、このページは地震発生 1 分から地震発生 25 協議も伝播特性としましては、青森県岩手県沖の滑り域の滑りによる。第一波が
0:08:30	太平洋沿岸に来襲する状況を示してございます。
0:08:34	上段に青森県の沖に破壊開始点を設定したケース、下段に岩手県沖に破壊開始点を設定したケースとなります。
0:08:42	両者ほとんど電波特性と変わらずに、地震発生 1 分をにつきましてはそれぞれの滑り域の破壊の開始時間が違いますが、それ以降はほぼ同等の伝播特性を示してございます。
0:08:56	一番右側の地震発生 25 分後に代替太平洋沿岸に第一波の津波が到達するといった状況が見てとれます 11 ページ目、お願いいたします。
0:09:07	11 ページから右上にございますけれども、地震発生 45 億円のほうから 90 分の裏手県沖の滑り域の滑りの第一波の反射歯が離型沿岸に来襲する状況を示してございます。
0:09:22	上端きだ青森県岩手県沖それぞれほとんど伝播特性に違いは見られずに、地震発生左側から地震発生 45 分に感謝は発生しまして徐々に北上していき、地震発生 70 分後には押し波が到達。
0:09:39	90 分後には引き波が発生するといったところが見てとります。
0:09:43	12 ページをお願いいたします。
0:09:46	どこかの
0:09:47	結構特徴的な伝播特性が示されておまして地震発生 110 分後から 210 分後、いわゆる 2 時間から 3.33 時から 4 時管とそういった時間のところになります。
0:10:00	モリ以南から北海道日高沿岸に囲まれた計算領域海域の北東南西方向に課長のナガイ水位変動が繰り返し発生する状況といったところが見てとれます。
0:10:12	具体的には上段の青堀県境でに説明いたしますけれども、地震発生 110 分後につきましては、青森県の南西から北海道の胆振のほうの北東をフクシとする。由良とした振動が、
0:10:28	発生しているというのが見てとります着 10 分が 145、180 分を右側の 210 分毎といったところでこういった推薦とかなりナガイ水域中期の水位変動が繰り返し発生するといった状況がわかりました。
0:10:44	このといった振動特性と共振のような
0:10:50	ものが起きる要因につきましては 13 ページで分析してございます。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:10:55	ちょうど左側に内閣府のモデルを示してございますけれども、この共振現象のようなものの線上に青森圏域のスプレイ液がございまして、ちょうどその課長としても、大体二分4分の1波長のものがございます。
0:11:11	ここの滑りに伴う利益沈降といったものがこの
0:11:15	検査領域の会議の中度をちょうど一致して、こういった土の隆起の水位変動が増幅したものというふうに分析してございます。これは利権大きい岩手県沖の破壊ケースいずれも同様の傾向となっております。
0:11:31	では連動型地震の伝播特性ですけれども14ページ目、お願いいたします。
0:11:38	連合型地震の長を滑りTは海溝軸の浅部のほうに設定してございますので、
0:11:46	そういったことは内閣に見られるの水位変動が見られてございません。14ページ目は地震発生1分後から90分後のところに示しておりますが、第一波が大体4025億円ぐらいが40分60分で、
0:12:02	太平洋沿岸に襲来しましてそのあといろいろな海域で反射が押し波、引き波が発生してございます。15ページ目をお願いいたします。
0:12:11	地震発生後110分以降、2時間から3時間10時間後といったところについては、この辺は利権周辺とか北海道の何からの反射歯がいろいろと繰り返し襲来していると状況といったところで下線で引いて、下の下線引っ張っておりますけれども、内閣のような波長の長い。
0:12:31	次に変動が確認されないといったことも確認してございます。
0:12:36	ではこれマツスエの津波高に与える影響につきまして分析したのが16ページになります。
0:12:41	16ページは内閣による津波波源モデルの分析になりますが、一番左側の日本地図上から東通の発電所もつと側を守り、三沢間口側火口といったところで大体等間隔に
0:12:57	水位時刻歴父兄をピックアップしてございます。
0:13:00	皆あんまり点その右側にばって系の破壊開始点を示してございまして、凡例で最高水位分布が示されるのを赤い点線で第一波以降に最高水位が見られるものを青い点線で囲っておりますが、
0:13:16	機器片理もう北側に対しては第一波が最高水位を持っておりまして、NaFにより南については、
0:13:24	この第1以降で水位が最高水位を立て切り出しておりまして、先ほど御説明しました水位変動の共振現象のような水位変動によって水位が高くなっているといったところを確認してございます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:13:39	あと具体的に真ん中の青森県の破壊開始点設定ケースの下から2番目の三沢漁港の辺りも発揮を見ていただきますと、強震継承に色が大体、地震発生後10時間とかそういったところでも繰り返し起きて、
0:13:54	いるといったところも確認してございます。ただし、第一波というあの発電所ではそういった現象が確認されないといったところを確認してございます。17ページ目をお願いいたします。
0:14:06	17ページ目は我々の連動型地震の基準断層モデルですけども、先ほどご説明しましたが超滑り域を海溝軸に浅部に置いているといったところから第一波がすべての沿岸について第一波な
0:14:20	支配的といったところを確認してございます。
0:14:24	18ページかな。今ほど御説明したまとめとなっておりますので詳細は割愛させていただきます。以上がS200連動型に関するコメント回答となります。
0:14:36	それでは、その代わりにして連動型、今のコメント回答のほうに移らせていただきます。資料97番の分厚い資料の20、1ページ目をお願いいたします。
0:14:54	メンバー被害の会合については約5年前の審査会も2016年の8月の会合でいただいたコメントの黒になります。
0:15:03	基本的に図11個の項目がございますがそのうち、まず御説明さしあげるのがS-43でございます各断層モデルの計算結果の比較から、プレート間地震は連動型地震に包含されるため、その位置付けを整理することといったコメントをいただいて、
0:15:24	2ページ目、お願いいたします。
0:15:27	基準津波評価の全体概要といったところにつきまして、赤い点線で示すのがこのシステムの点線で示しているのがこの各津波の
0:15:38	本資料で示している地震の説明になっておりますが、その一番上のプレート間地震についてでございます。
0:15:45	このプレート間地震というのは1968年十勝沖地震をベースに評価しているモデルでございます、注釈で※を打っておりますけど個目の右側のほうに文章で、
0:15:59	説明してございます。
0:16:01	もともとプレート間地震は地震本部において3号機北部で繰り返す発生する地震として評価していることを踏まえまして、
0:16:10	補償基準津波の評価対象地震の一つとして、一つとして選定してございました。
0:16:16	ただし、同地震の波源域だったり、きっちり地震規模といいますのは、連動型地震に包含されるとともに、津波高さとして比較して10分小さいといったことを確認してございますので、今回、影響検討用として位置付けを

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:16:32	変更させていきたい、いただきたいというふうに考えてございます。詳細につきましてははすいません行ったり来たりで申しわけございませんが補足説明資料の 20 ページ目、お願いいたします。
0:16:53	まずパン地震と連動型地震の比較といったところで左下に日本地図、そのままここに断層パラメータの比較といったところを示してございます。
0:17:02	まず、Mwとしましてプレート間地震はMw8.45 に対して連動型地震は 9.0 と
0:17:10	で断層面積につきましても、連動型地震に対して十分小さいといった地震でございます。そういったところから、前回の審査会合でコメントいただいたもので、というふうに認識してございます。今回の説明内容としましてその右側の下の下線にございますが、
0:17:28	連動型地震の評価結果との比較といったことで、今回発電所位置における津波水位と 1000 分布、また基準津波策定位置における津波水位と時刻歴派遣を比較して年度が地震に含まれるかどうかといったところを確認してございます。
0:17:45	M11 ページ目、お願いいたします。
0:17:48	評価フローとしまして、まず地震規模の丸い左側①の地震規模の設定、再現解析をした上で基準断層モデルを設定して不確かさここにまでにつきましては前回審査会合で御説明済みですので、今回割愛させていただきます、
0:18:05	⑤番として連動型地震と津波の比較といったところについて御説明差し上げます。
0:18:12	33 ページ目、お願いいたします。
0:18:18	今回比較対象としますのは一番左側で連動型地震の上昇側決定ケースの①と下降側決定ケースを③番を比較してございます。
0:18:29	基準津波の策定位置での比較につきましては右側にありますけれども、発電所から沖合約 5km離れたところで基準津波を策定しておりますので、そこでの葉系といったところも比較してございます。34 ページ目をお願いいたします。
0:18:44	まず発電所位置における水位上昇側の比較でございますけれども、中ほどに表で推移を示しておりますが、連動型地震の水位 11.18 に対しまして、プレート間地震は 4.73 メートルと約半分程度の水位となっております。
0:19:00	下に上昇量分布を示してございますが、連動が右側の連動側に比較しまして、
0:19:06	プレート間もその影響が十分小さいといったことを確認してございます。35 ページ目、お願いいたします。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:19:15	加古川につきましても、連動型地震の水位マイナス 5. 金融に対しまして、プレート間地震はマイナス 4.80 と連動型地震の評価に包含されるということを確認してございます。
0:19:27	36 ページ目、お願いいたします。
0:19:30	基準値のHにおける比較けっ近くなりますが、紙面左側が水位上昇側になっておりまして、基準津波策定値についても水は系ともに連動型地震に包含される箱がについても同様に連動型に包含されるといったことを今回確認いたしましたので、
0:19:48	先ほどご説明した通り、今後プレート間地震は影響検討用として位置付けて評価対象検知指針からは外したいというふうに考えてございます。以上がS43 への回答となります。それではあの津波地震等の本資料に戻っていただきまして、同じく、
0:20:07	2 ページ目、お願いいたします。
0:20:11	それでは説明の順番になりますけれども、赤い点線の上から津波地震、海洋プレート内地震、海域活断層、
0:20:19	今回コメントを受けております海底の地すべりのうち、右側に行ったきいただきまして、平川舟状海盆付近の地すべり、あと、前回会合で御説明した大陸棚外縁の海底地すべり跡改ざん付近の地すべり、斜面付近の地すべりといった、
0:20:36	順に説明させていただきます。最後に組み合わせといったところを御説明差し上げます。それでは 5 ページ目、お願いいたします。
0:20:47	津波地震についてのコメントは二ついただいております、まずS39 につきましては、
0:20:55	地震規模の不確かさを考慮する方法等々、土木学会 2002 を参考として、波源特性の不確かさを精一杯振って評価する方法の両方示した上で、地震規模の設定について再度説明することと、SA40 は千島海溝沿いで発生する津波地震というのを検討していなかったもので、
0:21:14	その必要性について検討することといった二つのコメントを受けてございます。
0:21:19	説明の一般的に津波地震につきましては女川とご審議いただいた内容をそのまま東にも展開しているといったところがございます。
0:21:29	かなっている、この検討対象領域の設定でございますのでそこを中心に御説明をさせていただきたいと思っております。
0:21:39	検層対象領域の設定につきましては、まず推本の知見を踏まえることと、あとする地震活動域とかそういった地震の発生機構に関するところを踏まえまし

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	て、結果的には千島海溝沿い後当庫会合部を跨ぐ領域を検討対象領域と設定してございます。
0:21:58	見守ってまして地震規模の設定につきまして、前回会合では明示三陸地震をベースに不確かさを振ってございましたが、マグニチュードの幅といったところの不確かさには±0.2の差異があるといったところも踏まえまして、
0:22:14	下の河川に振っておりますけれども、
0:22:17	地震規模の不確かさを考慮してMw8.3から8.5+0.2の不確かさを振った上で、土木学会を参考に、さらに波源通しての不確かさを考慮するといった手法に変更してございます。
0:22:31	6ページ目、お願いいたします。
0:22:34	前回の審査会合で御説明した黒字のところから赤字のところの変更点というふうになってございますが先ほど御説明した通り、基本的には女川でご審議いただいた内容をトレースしております、検討対象領域のところがいわゆる巻かといったところになってございます。
0:22:52	それでは7ページ目、お願いいたします。
0:22:54	まず検討対象領域の設定に関して、地震本部の評価の知見を整理してございます。左側が日本海溝沿いの評価対象領域右側千島海溝沿いの評価対象領域ですけれども、地震本部としても、海溝沿いでは、どこでも発生すると評価してございます。
0:23:13	8ページ目、お願いいたします。
0:23:15	実際の水路自身の活動域とかそういった関係について、島弧会合部に関しての知見でございます。まず左側に図がございますけれども左側の上が岩手県沖で発生しているスロー地震。
0:23:30	と明示三陸地震の関係でございますけれども、16地震が発生していないところで明示三陸が起きているといったところでございます。
0:23:39	右側に当庫会合部付近で発生しているスロー地震活動域赤い丸とか青い丸がございますけれども、その分布を避けるように、十勝沖地震であったり、実施既往地震が発生してるといったところから、そのうち当庫会合等にもスロー自身は含まれておりますので、
0:23:57	会合で津波地震は発生する可能性は低いというふうを考えられます。しかしながら今回は、
0:24:04	考えられます。9ページ目をお願いいたします。
0:24:08	しかしながら、保守性といったところを考えるために、千島海溝沿いまたは等5回も応募高く津波地震というのを考えるというふうに検討を変更してございます。以上が検討対象領域の設定となります。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:24:24	それでは 10 ページ目から地震規模の設定になりますが、前回会合からの変更点といったところを中心に御説明差し上げます。
0:24:32	まず地震規模に関しまして地震本部につきましては、文章一つ目でありますけれども、次の地震の規模っていうのを明示三陸の規模として評価してございます。11 ページ目、お願いいたします。
0:24:46	地震本部で千島海溝造につきましては、文章 1 ポツ目で、次の津波地震の規模は明示三陸地震よりも小さい規模というふうに評価しておりますが文章の 2 行目の最後のほうになりますが、より規模の大きい津波地震が発生する可能性は否定できないといった評価としてございます。
0:25:08	というのはこのに明示三陸地震に対して 12 ページ目をお願いします。
0:25:13	明治三陸地震は国内外での津波地震と比較しても最大規模の地震というふうになっておりますが 13 ページ目をお願いいたします。
0:25:22	実損切符を既往地震の分布範囲といったところを考えたときに、土木学会 2009 といった確率のハザードの考えの中では、のところであったり、右側の Murotani のスケーリング則といったところで地震規模には不確かさがばらつきがあって、
0:25:39	それは大体プラスマイナス 0.2 というような分布範囲はありますので 14 ページの通り、
0:25:46	明治三陸地震は国内外で最大規模ですが、それを上回るプラス Mw8.5 を考慮するというふうにまとめてございます。
0:25:56	15 ページ目、お願いいたします。
0:26:00	時基準断層モデルを設定する前にまず明示三陸地震の再現モデルを
0:26:06	このように設定して k _R で再現性を確認した上で 18、
0:26:11	19 ページ目、お願いいたします。
0:26:15	明治さん地震の Mw8.28 を Mw8.5 にスケーリングでしまして、左側のような中央防災会議の明示のインバージョンモデルの滑り量分布を参考に基準断層モデルを設定してございます。20 ページ目をお願いいたします。
0:26:33	で設定した基準断層モデルは明示三陸の痕跡に対して径で 0.66 と非常に安全側の設定となるといったところでございます。
0:26:42	して設定したモデルに対して不確かさを振っていくわけですがけれども、23 ページ目、お願いいたします。
0:26:50	まず、左側に概略パラメーターとして、まず日本海溝沿いの基準北端に波源を持って行きまして、南 20km 会議後側に島弧会合跨ぎながら千島海溝沿いまで比 10km 単位で異動させて、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:27:07	それとあと層厚も振った概略パラメータを実施した上で、決定ケースを対象に詳細パラメータスタディを実施するといった流れになります。
0:27:16	24 ページ目。
0:27:18	これは概略パラメータの上昇が 25 ページ目が、下降側といったところで、パラメータスタディを踏まえまして決定ケースとして 26 ページ目の左側下と右側のような上昇側と下降側の波源位置を
0:27:34	見つけております。その下限位置に対しまして、27 ページ目で防波堤ありなしの検討を実施しまして、28 ページ目、29 ページ目の通り、防波堤がありますでもこの概略パラメータスタディで決定した位置に
0:27:50	変更がないといったところを確認した上で詳細パラメータを実施しまして、32 ページ目のように、敷地前面では 10.34m 赤穂側でマイナス 4.27m と評価してございます。以上が津波地震の回答となります。
0:28:07	36 ページ目をお願いいたします。
0:28:10	続きまして期間のプレート内地震についてのコメント回答となります。
0:28:15	まず、S-41 としまして、海洋プレート内地震の位置の不確かさにつきまして、前回会合では南北方向の検討も見てございましたが、東西方向、海溝軸直交方向の検討も実施すること、また起震応力が共益といったことも踏まえて、
0:28:33	西落ち検査東落ち傾斜といったところも検討することといったコメント。それと S42 としまして、
0:28:41	海洋プレート内の断層上縁深さを 1km と設定しておりますが、土木学会では 0km を基本といったところの記載になるのでその設定根拠を説明するようコメントをいただいております。
0:28:54	これについて準じせあの回答いたしますがポイントとしまして、紙面左下の検討対象領域の選定で今回、津波地震と同様に、千島海溝、日本海溝沿いに加えて、千島海溝沿いも検討対象領域に追加してございます。
0:29:12	そこについてまず最初に説明させていただきます。
0:29:16	37 ページ目が評価フローになっておりますけども、大分これも女川でご審議いただいた通りの評価フローとしてございます。
0:29:25	それでは 38 ページ目の対象領域の設定について今回追加で変更してございますので、御説明差し上げます。
0:29:32	まず地震本部の評価でございますけども、津波地震同様に日本海溝造影千島海溝沿いともにアウターライズ
0:29:41	の地震発生の可能性を評価しております。
0:29:46	39 ページ目。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:29:48	ふとミックス的な地震発生メカニズムに関する知見を整理してございます。左側にポンチ絵がございませぬけども、
0:29:56	プレートの沈み込んうなる伸長応力によってアウターライズのとこで逐一構造正断層が発達してございませぬ、
0:30:06	尾花府政 2017 はこの出水傷を通過して水。
0:30:12	織り込まれた水が地震活動に影響を落とすというふうには評価してございませぬ。
0:30:17	40 ページ目をお願いいたします。
0:30:20	中西 2017 バーマルチビーム音響測深機による改定地形から先ほどの地溝値 0 構造図判読してございませぬ日本海溝のみならず、千島海溝沿いにも東傾斜西傾斜の正断層地形がこのように分布するというふうにはございませぬ、
0:30:38	その範囲は大体 80km 程度というふうには評価してございませぬ。
0:30:43	既存の知見が得ますと 41 ページ目。
0:30:46	の通り、前回会合までは日本海溝沿いでとめてございませぬましたが、千島海溝沿いについても評価する必要がありますのでここも検討対象領域に含めてございませぬます。
0:30:57	以上がきつと対象領域の設定になりますと 42 ページ目から、
0:31:02	ここからの地震規模の設定については前回審査会合から変更してございませぬので、
0:31:08	ちょっと教えてさらつと御説明させてお聞きさせていただきますが、
0:31:14	まず地震本部の日本海溝沿いの地震規模の評価としましては、表の一番下、次の地震の規模と M8.2 前後とございませぬますが、過去に発生した地震、昭和三陸地震を参考に判断してございませぬます。
0:31:29	43 ページ目をお願いいたします。
0:31:31	千島海溝沿いについても表の下にございませぬですけども、次の地震の規模は、
0:31:37	この領域で過去に発生した地震はないものの、日本海溝沿いを参考に昭和三陸と同様の地震規模を考慮してございませぬます。
0:31:47	そう三陸地震について 44 ページ目をお願いいたします。
0:31:51	国内外で発生したアウターライズとしては最大規模の地震規模の開発といったところになってございませぬます。
0:32:00	一方で 45 ページ目をお願いいたします。
0:32:03	僕学会は少し傾向が異なっておりまして、
0:32:07	右側のほうに本日で 1 から 8 まで順に番号ふってございませぬですけども、過去に起きたアウターライズの領域の 4 番になりますけども、
0:32:17	右側見ていただきまして 4 番で起用最大の MW が 8.6 と対応する地震は 1611 年の慶長といったところなので、土木学会地震方慶長の地震を津波地震と評

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載してございませぬます。発言者による確認はしてございませぬません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	価しておりますけれども、土木学会ではアウターライズであった場合は、その希望 8.6 だろうと。
0:32:35	いうふうに評価することを踏まえまして 46 ページ、まとめておりますが、アウターライズの地震規模はそうは三陸のMw8.35 上回る 8.6 といったところを考慮してございます。
0:32:50	別途、
0:32:51	ではまず、A47 ページ目お願いいたしますで基準断層モデルの設定の前に昭和三陸の再現モデルといったところを作成してございます。左下に再現性の確認結果としてkの示してございますけど、Kが1が1.43と。
0:33:08	いったところで土木学会の目安を満足してるといったところになります。そこに用いたパラメータが右上の表にございまして、下から四つ目に、断層上縁深さ土木学会を参考にして1kmというふうにしてございます。ここについてのコメント回答が所則説明資料の46 ページ目になります。
0:33:35	まず、土木学会リーダーといった評価にしていますかといったところで46 ページの右側に表ございまして、上から典型的なプレート間津波地震アウターライズとございまして、赤いは国民の下のほうに行きますと上縁深さを0とするというふうにしてございます。
0:33:54	これ0とするといったところなんですけど実際これ日本海溝沿い以外にもいろんなところの共通として前回共通としてまず基本は0とするというふうに土木学会では示してございます。正しい文章一番上にありますけれども、
0:34:09	土木学会で日本海溝千島海溝沿いでは過去に繰り返し津波が発生していて、プレート境界の形状に関する知見も公開なので、この知見を活用してモデルを設定してくださいねというふうに記載しておりまして、記載例としまして47 ページ目、お願いいたします。
0:34:27	土木学会 2002 で昭和三陸の再任モデルのパラメータの一覧になりますが、赤い線となっています昭和三陸の上縁深さは1kmというふうにして再現解析をしてございます。
0:34:40	この再現モデルをベースに48 ページ目で、基準断層モデルを設定しておりまして、左側の設定の断層モデルの諸元がございまして、アウターライズ地震につきましては、Mw8.6、上縁深さ1kmというふうにして設定してございます。
0:34:57	ただ1kmとした上で、右側の詳細パラメータスタディの中ほどに赤枠で絞っておりますが、不確かさとして0.12と0も含めてやっているといったこととございます。こういったところを踏まえて我々モデルを作っているということになります。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:35:12	以上がS50 へのコメント回答となります。それでは、また本資料に戻っていただきまして 50 ページ目、お願いいたします。
0:35:24	昭和三陸の再現モデルをベースに基準断層モデルを設定したものがこの表になっております。50 ページ目の右に表の諸元がございますが、Mw8.6 とその他のパラメータについても先ほど御説明しましたと僕学会のパラメータと、
0:35:41	すべて一致しているパラメータとなっております。これをベースに不確かさを振っていくといったところになります。
0:35:50	52 ページ目、お願いいたします。
0:35:52	不確かさの考慮方法につきまして左側のまず赤い枠になります。まず南北方向、海溝軸方向の位置走向の不確かさを振った上で、決定ケースを対象に直交方向東西方向の位置走向、あと断層傾斜に関する不確かさ、
0:36:10	それを振って最大ケースを対象に詳細パラスタを実施するといった流れになります。
0:36:16	53 ページ目、お願いいたします。
0:36:19	先ほど御説明した通り右下に絵がありますけども、赤い枠とあわ言う青い枠のところに対して 10km単位で、
0:36:29	位置の不確かさを考慮してございます。
0:36:32	層厚千島海溝沿いの走向の不確かさにつきまして 54 ページ目、お願いいたします。
0:36:39	その確かさとして、中西 2017 の正断層の地形、
0:36:45	地形判読から売られてます。層厚に関するダイヤグラムを見ますと大体±10° の範囲にこういうふう収まるといったところを確認してきましたので、走向の不確かさとアップしては±10° といったところを設定でございます。
0:37:03	56 ページ目からが計算結果になりまして水位上昇側、57 ページ目が加古川で決定ケースが 58 ページ目の下の断層モデルのようになってございます。この網目の位置が防波堤ありなしでも 10 日といったところを 59 ページ目。
0:37:20	60 ページ目、61 ページ目といったところで、
0:37:24	も場所として問題ないといったところを確認した上で、62 ページ目から、
0:37:30	海溝軸直交方向の不確かさといったところを考慮していきます。
0:37:34	沈み込んだ後のプレート内の位置につきましては、地震本部 2014 年の確率論的評価を参考にしております、
0:37:42	真ん中の表にございますけれども、大沈み込んだ後も幅 100km、あと沈み込む前もカバー100kmといった範囲を設定しておりますのでこれを参考に 63 ページ目の右のように、ちょっと見づらくて申しわけ母線が、
0:37:59	真ん中の赤い基準断層モデルとから東西に対して 10km単位で、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:38:04	相当数のパラメータスタディを実施しております。
0:38:08	で、それぞれの決定ケースに対しまして 64 ページ目開けて削れてそれぞれの位置に対しまして、西傾斜し認識東傾斜の
0:38:18	パラメータスタディも実施してございます結果が 65 ページ目からばっとうふうにしてございまして、町村側が 65 箱側が 66 ページ目でまとめ。
0:38:31	だところになります。67 ページ目が、
0:38:35	概略パラメータスタディの決定 1 というふうになっておりましてそれに対して、68 ページ目で、詳細パラメータスタディを実施しまして、検討結果としましては 71 ページ目の通り、上の段で水位上昇側が敷地前面で 9.7mで、
0:38:52	水位下降側でマイナス 4.59mと評価しております。以上が海洋プレート内の強化、コメント回答となります。
0:39:01	それでは、74 ページ目からは海域活断層による地震といったところになります 75 ページ目をお願いいたします。
0:39:09	前回審査会合で御説明しましたのが右側の赤い点線で海域活断層の検討対象として上側の産機断層、あと右側の敷地東方沖断層といった二つの断層に対してやってございます。
0:39:24	前回の方ではこの二つの断層に、の選定プロセスを明確にするよといったコメントを踏まえましたので、今回資料を充実してございます。
0:39:36	左側にプロセスの明確化といったところですけれども、今回これ実際は地質のほうでいろいろ今回ご説明差し上げましたが、敷地周辺海域における文献断層を対象に敷地への影響を考慮した発電活動性評価を実施しましてこの二つの断層を選定してございます。
0:39:56	76 ページ目お願いいたします以降は地質の審査会合の抜粋といったところになっておりますので詳細は割愛させていただきますが、①として文献による断層を抽出して、②、音波探査記録で評価対象断層選定
0:40:14	③で活動性の評価をした上で④で検討対象体操抽出といった流れでございませす。
0:40:22	77 ページ目が敷地を中心とする半径 30kmの範囲。
0:40:27	五つの断層に対しての活断層評価対応実施するというふうに記載してございます。78 ページ目は敷地中心半径する半径 30km以遠として二つの断層をピックアップしてございます。
0:40:41	79 ページ目、半径 30km範囲に対しての
0:40:46	評価結果 80 ページについては、半径 30km以遠の評価結果、これは敷地の地質の審査会合資料をこちらのほうに
0:40:56	せ、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:40:57	示してございます。
0:40:59	以上のところから敷地東方沖さんを聞いての設定してございまして、81 ページ目。
0:41:06	このように、これ、そこでこの二つの断層があつて、文章二つ目にありますけども、阿部の簡易予測式により推定津波高を評価してまして、82 ページ目のように、右上の表の右側にありますが、恵山沖断層で 0.6m と。
0:41:22	いうふうに評価してございます。以上が海域活断層のコメント回答となります。
0:41:29	それ 80 ページ目。
0:41:31	以上が地震に起因する津波の評価のまとめになりまして 84 ページ目が連動型地震を含め、表のまとめとなります。
0:41:39	水蒸気側の決定ケースは連動型地震に起因する津波の評価というふうに今回 100 評価いたしました。
0:41:47	なので、この水色のハッチの地震を対象に、地震以外との組み合わせで評価を実施いたしますと 85 ページ目が、
0:41:57	連動型地震と津波地震と海洋プレート内地震も敷地へ影響といったところを御説明しております。
0:42:06	連動型地震というのは敷地全域にわたって影響が大きいのに対して津波地震アウターライズは周期が短いといったところもありまして局所的に、
0:42:15	水位はとこがありますが下の棒グラフアース折れ線グラフ、赤い動型地震に対して青い津波地震、緑のアウターライズ地震といったところは局所的ですので、こういった面でも連動型地震の影響が支配的だというふうに確認できたというふうに考えてございます。
0:42:33	一方で 86 ページ目。
0:42:35	の通り、沖合の基準津波策定位置に対しても左側の水位上昇量の水、右側のほうは敬語比較して見ていただけるとわかる通り、と的に連動型地震の影響が大きいというふうに考えてございます。以上が上昇側となります。
0:42:52	加古川につきましては 87 ページでございまして、
0:42:56	水位下降量に加えまして敷高を下回る継続時間といったところもあわせて決定係数をし、
0:43:04	絞り込むございます。
0:43:06	でく下降側につきましては、連動型地震の基準断層モデル②③について防波堤のありなしで傾向が変わるといったところを前回の
0:43:18	会合でも御説明した通り、
0:43:20	ありますので、この二つを
0:43:23	決定ケースとしてピックアップしまして、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:43:26	地震以外の津波と組み合わせるといった評価にしております。
0:43:31	88 ページ目に、基準津波策定位置での水開けを示しておりますけれどもこれも同意上げ側と同様に津波地震アウターライズと比較して連動型地震の影響が大きいといったところを確認いたしました。以上が地震に起因する津波評価と
0:43:47	いうふうになります。それでは 90 ページ目、お願いいたします。
0:43:51	それは地震地すべり及び斜面崩壊についてのコメント回答となります。
0:43:57	その 37 が白川舟状海盆に関する知見を加えること 46 が改ざん付近の地すべりについて知見を修正することと、47 番がハワイの地すべりについて影響を検討することを最後に 48 として、下北かえることナガイ縁断層の地すべりの厚さの算定根拠を明記すること。
0:44:17	また、コメントいただいております。
0:44:20	コメントの概要になりますが日高日高舟状海盆の地すべりの津波評価につきましては、右側右側にございますけれども、複数の海底地すべりが地形が認められておりまして、知見によりまして、この発生は地震起因に可能性もあると。
0:44:37	いったところを踏まえましたので、点けがございまして、今回地すべり地形を詳細に判読しまして、
0:44:45	津波解析を実施して評価しております。右側に改ざん付近会計ハワイの地すべりといったところございますが、ここについては、女川でご審議いただいた内容をそのまま東通のほうに反映したといった、いう。
0:45:01	落としてございます。それでは詳細に説明させていただきます。94 ページ目をお願いいたします。
0:45:08	まず、海底地すべりに起因する津波としましては三つのカテゴリーに分けてございまして、赤い実線で 30 公共北部から十勝沖の地すべり右上の青で改ざん付近の地すべりみ緑色の線でナガイの地すべりというふうに三つのカテゴリーに分けてございます。
0:45:27	左側の赤い枠のカテゴリにつきまして、まず地すべりとしては広域的な外サトウとしまして、津波伝播特性の検討結果から、
0:45:37	この範囲を絞り込んでおりまして、徳山ほか 2001 による地質構造を用いて、広域的なナガイさを実施しております。
0:45:45	その上で局所的精査としまして、2-1 で下北太平洋側は大陸棚外縁これ前回の会合で御説明したものに加えまして、②-2 として平川舟状海盆付近の地すべりすいません北海道胆振から志田海岸の大陸棚外縁といったところをピックアップして地すべりを

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:46:04	評価するといったフローに見直してございます。
0:46:07	95 ページ目をお願いいたします。
0:46:10	これが左一番左側伝播特性の検討で範囲を絞り込んだ。
0:46:16	として今定検から北海道の日高といった範囲をターゲットに右のところ徳山ほかの地質構造を見ると、実際は海底地すべりはないといった評価になります。
0:46:29	ただこれ広域的ナガイさんなどで局地的にもちょっと絞り込んで地すべりを判読するといったところで文献調査を実施したのが 96 ページ目からになります。
0:46:38	まず、地すべりの形態になりますけれども、文章に業、一番下にございますが、池原 2005 とか、そういったところでは大陸棚斜面の上部とかそういったところで地すべりってというのが発生するといったような知見がございます。
0:46:54	97 ページからもそういった事例をピックアップしており、おりまして、
0:47:00	101 ページ目になります。
0:47:03	前回会合では黄色い丸の東通の前面の敷地下北太平洋玉大陸棚外縁だけを特出口適正範囲として設定しておりましたが、白川のところについても同じように大陸棚外縁が分布するということ。
0:47:21	またここで発生する地すべりってというのは発電所の位置関係から、津浪の比
0:47:27	過去にあつて、被害をもたらした可能性っていうのもございますので、この胆振地方についても、局地的精査範囲として追加したというものでございます。
0:47:38	102 ページ目からは前回会合で御説明しましたが、大陸棚外縁のものでございます。東電さんRFSさん原燃さんと共同で実施した改定地形調査結果を踏まえまして 103 ページのように判読を実施しまして、
0:47:54	北からSNSの一番 2 番、ちょっと見づらいですが三番 4 番といったところの四つの地すべり地形を今回判読してございます。
0:48:03	それぞれの規模に対して抽出した処分は右の表にございますけれども、
0:48:08	解析といったところを見ていただきまして、Ss-1 が 0.52 立方キロ。
0:48:14	m2 番が 1kmに対して三番 4 番が 0.010. 04 とこの三番と四番の堆積の算定根拠資料に明記するようコメントを受けましたので、ここに対して回答するのが、
0:48:30	補足説明資料のですね、63 ページ目をお願いいたします。
0:48:41	見開きで見させていただきますとこの 63 番が SNS の一番で 64 番が Ss-2 番となっておりますが、この二つについては規模が大きいのですので、大きいのですので、周辺の海底地形とかそういったところも踏まえながら、地図地すべりの、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:48:58	復元地形っていうのを作成しておりますので、堆積っていうのが総裁に出てきます。一方で、65 ページ目、66 ページ目を見開きで見ていただきますと、この三枚まま規模が小さくて付議復元するまでもないだろうといったところで、
0:49:16	見 65 ページ目の
0:49:18	水谷加わるTallといった、こういったもの、簡易的な地すべり耐えの形状を
0:49:26	設定した上で厚さ長さというのを設定してございます。具体的には右側のように断面図がございませけども、改定地形のこういった起伏に対して地すべり対応点線で仮定して厚さ長さというの概略的に求めたといると。
0:49:42	いったこととでございます。これを今回資料で追記させていただきました。以上がS48 への回答となります。それでは本資料戻っていただきまして、104 ページ目、お願いいたします。
0:49:58	本市で 104 ページ目から今回知見加えました北海道の胆振日高の外縁に関する知見となります。
0:50:07	まず知見ですけど産総研につきましては、左のように、
0:50:13	日高の今の大陸棚の縁でだけばのようなこの地すべりっていったところを見つけておりまして
0:50:20	複数の海底地すべり地形が認められ、浦河スキームの大陸棚斜面に最も規模が大きい地すべりが分布するというふうにしてございます。
0:50:29	105 ページ目に、さらに詳細な知見がございまして、
0:50:35	まず一つ目。
0:50:37	日高舟状海盆には複数の海底地すべりが認められまして、表層付近に 4ヶ所、これは左の図の黄色い地すべりになります、黄色い地すべりが 4ヶ所、あと海底の下に緑の地すべりとして 7ヶ所存在すると。
0:50:52	幅と長さを比較して圧差が云々というのが特徴であって、最も大きい地すべりっていうのは、浦河付近の地すべりだというふう知見として記載しております。
0:51:03	その発生要因につきましては文章三つ目になりますけれども、海底の下にはガスの存在が示唆されているので、その家族限り水圧比の増加といったのほかにこの地域周辺の地震も多発してるといったところから地震の活動可能性の指摘もしてございます。
0:51:20	以上を踏まえまして、かつ 1 紙面の一番下にありますがこの浦川沖の地すべりを対象に、今回津波解析評価を実施してございます。106 ページ目をお願いいたします。
0:51:31	嘘一つの解析は 2 層流モデルKinematic何度モデルを用いて実施してございます。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:51:37	文書み三つ目のポチですけれども、この日高舟状海盆の地すべりにつきましては、同海域で取得されている地形データや音波探索を記録を用いて詳細に判読を実施しております、それはそれに用いて二相流Kinematicを実施してございます。
0:51:56	具体的には
0:51:59	113 ページ目をお願いいたします。
0:52:03	地形判読に用いたたでございませけれども、文章一つ文章になりますが産総研経済産業省の委託でやった産総研の事業後産総研独自にやる改定地形データ音波探査記録並びにクラウン見るように、
0:52:19	水路協会M7000 を用いて地すべり調査を判読してございます、右下にそのそれぞれのデータ範囲を水色を年度オレンジ紫で範囲で示してございます。
0:52:31	このデータを用いて判読した結果が 114 ページっていうふうになってございます。
0:52:36	この判読につきましては文章一つ目鈴木とか池原の知見を参考に判読してございます。
0:52:42	文章ですけれども、判読の結果、浦河大きな地すべりは 1Pdにラッシュに区分されて全体として複数回の活動で形成された可能性があるといったことを確認しました。なお、この形状は、先ほど御説明しました様々な知見に示される。
0:53:01	形状と整合的であるといったところも確認できてございます。
0:53:05	左下を見検査料ずっていうのを示してございますが、特徴として、右側に矢羽根で四つ振ってございます。
0:53:12	まず地すべり位置というのが最も面積が大きい地すべりでして、その堆積部には舌状の分布形状を示す微地形が認められておりますので、複数回の活動で形成されたという可能性がございませ。
0:53:25	この地すべり位置の上に地すべり位置は、地すべりに覆われて 2 の上にはさらに 2' っていうところにも覆われているというのが鮮明に見てとれます。
0:53:38	なお、2' の堆積物と包絡ない介護関係の不明ですがこういったふうに
0:53:44	かなり精度よく地すべり地形を判読できたというふうに考えてございます。
0:53:49	紙面下になりますが、I と II は全体として複数回の活動で形成された可能性がございませが、ちゃんと検討では安全側に同時活動を考慮してございませ。115 ページ目から復元地形の作成になります復元地形につきましては、
0:54:05	左、上の締めにあります 100 人三つの測線の関係であつたり、周辺の改定地形、そういったところの関係から総会同僚と堆積道路の収支が合いように、地すべり前の地形を復元してございませ。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:54:21	結果が 116 ページになっておりまして、左上のげ管図が地すべり後の地形左下が地すべり前の地形といったところで、
0:54:30	その差分をとったのが右のオレンジのようになっておりまして、見た目 1 と 2 っていうのは重なっている見ますがこういうふうに戻元すると、明確に 1 と 2 の実例対話違うといったところがありますが同時に活動させてございます。
0:54:45	この部会を用いて二相流を実施するというものでございます。
0:54:50	110 ページ目でKinematiclandslideモデルを使うには、崩壊域と堆積の試行変化分とっていうのが必要になりますので、先ほど御説明した復元地形の差分崩壊前と崩壊後の地形から青い堆積赤い堆積といったところが明確にこういうふうになりますので。
0:55:10	この比高変化分布を用いてKinematicを実施してございます。
0:55:14	これは 2 層流モデルの説明が 118 ページ目からになりますけれども、二相流モデルのパラメータってのは基本的には既往文献になっております。基づいております。密度につきましては、
0:55:28	この文献目の前通る 2013 といったところでの密度検層結果とか密度、そういった
0:55:35	地すべりの厚さの関係式から組織を導いてくれておりましてこの式から案密度を設定してございます。
0:55:43	結果な 4119 ページになっておりまして敷地前面で 4.25m というふうになります。
0:55:49	120 ページ目からがKinematicというものになります。
0:55:53	Kinematicにつきましては文章一つ目になりますけども、
0:55:58	気候変化のほかに切り地すべりの伝播速度、ライズタイムといったのが必要になります伝播速度につきましては、中段のスナップショット
0:56:13	30 分のところでフロント 1 っていうのがついてますので、この 30 分を基本に伝播速度の 6m 後を決定しております。あとライズタイムにつきましても 30 分まで変動が継続しますが、
0:56:26	右下の断面図で見いただきますと地すべりの発想というのが 5 分から 10 分の間で急激に落ち込むといったところも踏まえましては安全側にライズタイム交換っていうふうを設定しております。
0:56:37	それで計算したのが 121 ページ目で敷地前面で 2m といった結果になってございます。
0:56:44	以上が日高水道部海盆の結果となります。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:56:48	123 ページ目からが改ざん付近の地すべりといったところですが先ほど御説明した通り女川と同様の評価内容になっているので、ポイントを絞って御説明させていただきます。
0:56:59	真ん中にも本日がありまして、日本海溝沿いには報告会も区の上に、えりも改ざん後、
0:57:07	茨城県沖地下水も改ざんと有名な解析火山が会社がございます。124 ページに第 1 ヶ所改ざんの例示しておりますけども、第 1 ヶ所改ざんは正断層により東西に二分されておまして、
0:57:22	西半分が開口に沈み込んでいるといったところになります。
0:57:26	文章として二つ目ですけれども平坦部の水深は 3600 から 5200 と非常に深いところにありまして、
0:57:34	先ほどの断層、正断層の崩壊に伴って石灰岩や玄武岩の堆積物が存在するといったところで明確に地すべりが、
0:57:42	あるよといったような知見はございません 125 ページ目には音波探査記録からこういった近く地殻の構造を示したものがありますがこういったところから見ても地すべり地形はないというふうに言われております。126 ページ目が発電所に影響の大きいえりも改ざんになりますけれども、
0:58:00	えりも改ざんっていうのは私も第一化成も改善よりはるかに小さいものでありまして、
0:58:05	さらに、知見によりますと、崩壊地形といったとこ忘れられてないといったところがございます。以上まとめまして 127 ページの最後になります、
0:58:16	以上から改ざんの地すべりが発電所に与える影響は極めて小さいというふうに評価してございます。
0:58:23	128 ページ目からがハワイになります。ハワイにつきましては、129 ページ、130 ページ目で過去に起きた津波の痕跡といったところを調査しますと 1975 年で津波っていうのが日本に襲っておまして、
0:58:41	左下の赤い枠にありますけれども、函館で水位が 17 名センチ鮎川宮城県の鮎川で 55 センチといった津波が知られております。
0:58:52	この津波の高さを参考に、あの地すべりの評価をしていきます。具体的には 131 ページ目として、甘い地すべりっていうのは非常に
0:59:04	数多くなっております、
0:59:06	文書、
0:59:08	一つ目のところにありますけども、巨大津波を伴った可能性があるのはぬ地すべりあかつ地すべりから火がエア―地すべりの三つに限定されます。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:59:20	今回評価対象としましたのは後期更新世以降に生じたAlikeつうといったところを評価対象として選定してございます。Alikeつうに対しまして 132、133 ページ目で、
0:59:32	地形を復元して放火移動量を見たのが 133 ページ目の文章二つ目の後半にありますけど、約 105 キロ立方キロ立米といったところになります。
0:59:42	この堆積と先ほど御説明させられました既往津波の
0:59:47	津波の高さから、
0:59:49	134 ページ目のポチ四つの一番最後にありますけれども、日本沿岸における津波の水位は最大でも 3.8m といったところでございますので、135 ページの通り、ハワイ付近の地すべりが発電所に与える影響は極めて小さいと。
1:00:06	いうふうに評価してございます。以上が、海底地すべりの、
1:00:11	評価結果となります。
1:00:13	238 ページ目から、火山現象といったところがございますがここは前回会合で説明してご指摘受けておりませんので説明割愛させていただきましてまとめると、147 ページ目をお願いします。
1:00:29	揚水上層の結果の一覧表を示してございますが、日高舟状海盆の 4.25m と敷地前面に 4.25m といったところが発電所に一番影響が大きいのでこれと地震の連動型を組み合わせたいします。
1:00:44	148 ページ目が下降側になりましてこれも同じように日高舟状海盆の 2 層流モデルの結果マイナス 2.50 が決定ケースますのでこれに対して、連動型地震と組み合わせるといった検討を実施してございます。
1:01:00	150 名をお願いします。
1:01:03	組み合わせにつきましては今御説明した通り、
1:01:07	の、この
1:01:09	パッケージで組み合わせの検討を実施してございます。
1:01:14	151 ページ目で組み合わせの
1:01:17	時間の設定の設定方針ですけれども、この辺につきましては先行のサイトの審査実績と同様に、地すべり位置での地震動の揺れの継続時間中に水位が最も高くなる時間といったところで、組み合わせ時間を設定してございます。
1:01:33	経費の文字どおりのこういう的な問題として組み合わせるか文書二つ目ですけども、組み合わせ時間は発電所港湾内で水位が高くなる傾向があって、水位下降側の評価点であります補機冷却取水口前面位置の明を線形に足し合わせて算定してございます。
1:01:52	152 ページ目。
1:01:54	2 地すべり位置での到達時間といったところを押せ示してございます。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:02:00	地すべりの到達時間は文章一つ目にありますけど、文章 1 行目にありますけど、地震の破壊開始点と地すべりの頂部までの距離を震源距離とみなしまして、S波速度 3.4 で割り返して地震の到達時間を表の右側にあるようにそれぞれ示してございます。
1:02:20	153 ページ目。
1:02:22	で、地震動 1A地すべり位置での地震動の継続時間につきましては大統領の振幅包絡線のものを参考としまして、地震の規模等震源距離からそれぞれ上の表のように求めてまして。
1:02:38	そういったところから、地すべりで発生する時間が下の表の一番右のような範囲になるといった区になります。
1:02:48	それぞれのこの地震に対しての線形足し合わせをしていくといったところで例を示しますと、水位上昇側について左側の下に連動型地震の青い酒に対して緑側の緑の地すべり単独の葉系を
1:03:05	づらい線形的にずらしまして、赤い実線のように水位が高くなる時間っていうのを算定したのが表の一番右側の組み合わせ時間といったところになっております。それぞれの時間に対して、同じ波動場で検討したのが 155 ページ目。
1:03:23	になります、敷地前面で水位上昇側が 10.12m、下降側については 5.11 号店に行けと言ったように評価してございます。
1:03:34	すみません、簡潔な説明は以上となります。
1:03:40	はい、生徒説明ありがとうございました。では審査側で質問とかあればですね、順序お願いします。
1:04:04	規制庁ナカムラですけども、御説明ありがとうございました。ちょっと確認する前に 1 点だけ先にですね、先ほどちょっと説明していただいたところで、マイクの調子が悪くなったのか、
1:04:20	説明が途切れてしまったところが実はあったんですね、それが資料で言うと最後の資料の
1:04:28	連動型以外の方の資料の
1:04:33	ちょっとください。
1:04:37	ページ数で言うと 120 ページのところですね。で、多分これ、このページの頭からこのページぐらい、どう後半までがちょっと等々切れてしまったんで、すみませんけどここだけ先にちょっと説明していただけますか。
1:04:54	僕電力の加納でございます。すみません誠に申し訳ございませんでした。
1:04:58	Kinematicのパラメータ設定につきまして、飛行変化分布のほかにはですね 1 ポチ目側の文書が後半にありますけれども、地すべりの伝播速度とライズタイ

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	ムっていう二つのパラメータが必要になります。その設定にあたっては2層流モデルの
1:05:15	から得られるものを使ってまして文章二つ目ですが、地すべり伝播速度につきましては、概ね崩壊域が警察される。
1:05:25	地震発生後30分といった地形を見ておりますスナップショットでいくと一番右側の青と赤かったになります。この形状に至るまでの伝播速度とライズタイムというのをもとに設定しております、
1:05:40	伝播速度については6mといったところが左下の地形断面変化といったところの30分の赤い実線のところになるんですけども、
1:05:52	30分間つけに行く距離が10.72kmでそれに大体1030分ですので1800秒かかるという6m進むといったところで伝播速度を設定しております。
1:06:05	ライズタイムにつきましては右の断面図を見ていただきますと、そう海域等態勢機器がそれぞれ沈降隆起する時間はライズタイムになります。
1:06:15	地震発生後30分まで断続的に地すべりが落ちていくわけなんですけども、ライズタイムっていうのは、津波水位に与える影響の大きいですので、組織的に5分というふうに設定してございます。説明は以上となります。
1:06:31	ナカムラです。ありがとうございます。そしたらちょっと説明のほうは以上なので、
1:06:39	少し持ってここもまた確認とかあるかもしれないんですけども先にですね。連動型のほうの
1:06:48	資料ですね、96ページのほうとそれに関する補足説明のところで確認したいと思いますんで、基本的には私は大体連動型のほうは、大きな確認っていうのはないかなと思ったんですけど。
1:07:04	これちょっと聞き落としたかもしれないんですけど、連動型のほうの資料96のほうの22ページですね。
1:07:13	で、1点だけなんですけども、紫色で書かれている特性化モデル1っていうのを今回追加したって言われてたんですけどこれ理由だけちょっともう1回確認させてもらえますか。
1:07:30	はい。トーク僕の考えでございます。実際、前回の審査会合で御指摘とかそういったところは受けては5年以内なんですけども自主的にですね
1:07:40	特性化モデル①といったものに対してどのような規模になってるかといったところを確認したく内閣府モデルイベント堆積物と今回比較させていただきました。以上です。
1:07:55	はい、わかりました。あくまで自主的にで特性化モデルの1の規模感というか、そういうところを確認したかったっていうことですね。わかりました。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:08:08	連動型のほうで言うと、もう1点なんですけども。
1:08:13	すいません。補足説明資料の
1:08:18	16 ページですね。
1:08:23	要するに先ほどの 22 ページのところ、がモリのところが大きくなっている。内閣府に 020—幅がモリが大きくなってるといのは、ずっとSAP社ととかついてたんですけど 16 ページのところにあるようにミサワのところで、
1:08:43	青森県のところとオオイ岩手県の辺りが大きくなってるといところがこれが重なり合って、
1:08:52	多様な形になって幅がモリのところのデータが大きくなってるとい理解でいいのかということをちょっと確認したいんですけども。
1:09:04	東北電力の考えでございます。
1:09:07	前回の加温用の 7 月の会合ではですね私今定検容器からの反射はとそういったところが重なるといふうに御説明差し上げたんですけども、今回、スナップショットで詳細に分析した結果、
1:09:23	13 ページのように、
1:09:26	地震発生。
1:09:29	2 時間カゴメ違う。
1:09:32	12 ページの
1:09:37	なんて県沖から志田カーをこいう閉鎖領域っていう大きい湾地形のようなどころに対してこう±でゆっくりとした水辺のが、
1:09:48	強震検証みたいなのが起きてるんですね、この共振現象のために、
1:09:54	先ほど中村さんがおっしゃってくれたように三沢結構法廷これに伴って水位が大きくなってまして、
1:10:02	16 ページ目のように、
1:10:05	着目するとともに作業工程で行くと、地震発生 of 10 時間ぐらまでゆったりゆたります振幅を
1:10:13	調査に検証しながら水位が変動落ちていくといたようなことになっているってことを今回改めて確認しますと、
1:10:21	以上です。
1:10:24	わかりました。
1:10:27	要するに、12 ページみたいなところで強震みたいなんか働くから、それでおっきくなったということですね、
1:10:37	多分理解できたと思います。
1:10:40	ひとまず運営と連動型のほうですね、についてですけども、他の方も何かあったら、よろしく願います。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:11:16	規制庁の中村ですけども、連動型のほうは特に確認事項ないみたいなんで、残りのほうの連動型とA以外の方と、
1:11:30	組み合わせのほうですね、ミツイてこれから確認したいと思います。で、まず私からですけども、1点確認したいのが本当確認ですけど、118 ページ。
1:11:42	改定する地すべりのところですね。パラメーターの設定っていうふうにあるんですけども。
1:11:49	これは
1:11:51	崩壊物の密度っていうので今土台通る使ってますけども、これは、
1:11:57	文献とかではそういう密度を調べたりとかっていう結果はなかったということなんですかね。
1:12:09	東北電カタカハシでございます。
1:12:13	このピンポイントで水を測っているような点ではかったもので推定の式を求めたっていうのは今 118 ページのあれの右側にある式になりますんでと実際に計ってと前とる中で測って、
1:12:28	崩壊物の密度を推計式を求めてそれから今回計算に用いた三つを求めているっていうのが流れになります。以上です。
1:12:40	すいませんちょっと私今理解できなかったんですけども、日高のほうの文献か何かでもうそういう密度っていうのは、
1:12:50	調査結果みたいなのが出ているっていうことですか。
1:12:54	それを換算式みたいなものを使って出したのが、
1:13:00	最終的に 1.34 になってるということですか。
1:13:06	サトウクリニックの可能でございますC点補足しますと、左下の大通る 2013 と いった文系の黄色い地すべり今回検討対象とする地すべりの、
1:13:19	上回ってるんですかねそこがボーリングコアをとった点と、あと地すべりの下のこの二つのボーリング孔に対して見守っ進路方向でPS検層そういったところから密度を設定してるのは今後またさらに個々の文献に記載してます。
1:13:37	それぞれの密度に対して厚さが結構関係してくるので。この回帰曲線を引っ張ったのがこの右側の線になってございます。
1:13:49	また、ここの関係曲線に対して今回地すべりのH厚さを与える必要がございまして、この圧アップについては含みインチ径を用いた地すべり 1、
1:14:01	一番の最大堆積厚さ 218m っていうのはここに代入すると、地すべりのす。
1:14:08	地すべりパイル密度っていうのは大体 1.34 になるといったことになります。
1:14:14	以上です。
1:14:16	はい。なんでちょっとそういうことを聞いたかっていうと、今さっきの敷地の前面の

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:14:23	四つ海底地すべりがありましたけどそのあたりが密度が 1.724 とかって書かれて今回のやつが違ってたんで、どういうやり方で出したのかなっていうのがちょっと気になったんで、確認しましたけども、
1:14:39	数値的には違うんだけど、基本的になやり方数値の出し方っていうのは変わらなかつ変わってないっていうことでよろしいですか。
1:14:52	はい。東北電力の加納でございます。密度はにつきましてはそれぞれの海域の地形に出てくる陸上カンノ戦場とかそういったところの理由で同社の成分が違うので、密度っていうのは同じにならないというふうには認識してございます。
1:15:09	で、今御指摘あった 108 ページ目の
1:15:12	9 社が共同調査で実施した密度の設定ですけども 108 ページ目、お願いします。すいませんちょっと言葉が足りずに申し訳ございませんでしたが今回改定地形調査で試料を採取したといったところで四つのボーリングコアからとってございます。
1:15:29	これの土砂の試料の採取方法につきましては、船を出しまして採泥器っていったところを回帰におろして行ってチューブを用いて実際に自由落下のところはとって引き抜いてそれを室内に持ち帰って密度試験を実施してございます。
1:15:50	一方で先ほどの産総研の地形についてはPS検層で連通深さ方向ダーツでこうやってますので、はかり方としては、
1:15:59	正確には違う。
1:16:01	っていうふうには認識してございます。
1:16:05	そのナカムラです。わかりました。場所によって密度の値が変わるっていうのはこっちも当然わかってるんで、やり方が違うのかなということをちょっと確認したかっただけです。これについては以上です。
1:16:19	提案等、
1:16:24	。
1:16:28	あんまり多くはないんですけども。
1:16:32	すいません組み合わせのところですね、150 ページのところ、
1:16:38	受振以外のところこれ連動型と地震以外のところと言うと日高のやつを組み合わせているって言うんですけども、この比高のやつを選んではるっていうのをもう決めてしまってるのは、
1:16:53	ほかのものがもう値として小さいから、
1:16:58	土台に諮ってこないとか、そういう考えということですか。
1:17:06	はい、東北電力の加納でございます。147 ページ目。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:17:12	対しましてですね、基本的にこれまでの先行の審査はそういったところ拝見させていただきますと、地震の決定係数並びに地震前の決定ケース、そういったところでピックアップして行って、あの組み合わせをすると。
1:17:28	言ったふうなところがあったのかなというふうに考えまして今回、
1:17:33	一定ケースの日高舟状海盆のものを使っているというものでございます。
1:17:41	はい。とりあえず私の方から今、説明については理解してとりあえず私からは以上です。このほかの方であればお願いします。
1:17:57	すいません規制庁ナガイですけども、結論的なところはですね問題はないかと思うんですけど、ちょっと書きぶりとしてこれほんとにいいのかっていうのが1ヶ所ありまして、ハワイの海底地すべりの結論ですね、135 ページ。
1:18:12	これは女川と同じような言いぶりしてるんですけど。
1:18:15	東通の場合、今回の結果だとこれはこう言ってはちょっとまずいんじゃないかと思うんですけども、低理由としては 147 ページの比較表の数値ですね。
1:18:27	海底地すべりが 4.7 名 4.25 というのは出てる中 3.8 ってこれ費、このような結論にはできないと思うんですけども、少なくともこの 147 ページの
1:18:38	表には俎上に上げないといけないと思うんですが、どう考えますか。
1:18:44	はい、東北電力の嘉門でございます。すいません今ほどの長さのおっしゃった通りちょっと女川との整合性といった観点から、この発電所へ与える影響は極めて小さいという影響は小さいといったところが一つと。
1:18:59	あと範囲のその 3.8mを導く仕方としまして何ページだ。
1:19:09	134 ページ目ですね。
1:19:19	すいません。この 100 あまりの地すべりの求め方としましては 134 ページ目の中段にございますけども、こういうふうなボリュームと高さっていった関係からの簡単な式っていったところがございます。
1:19:34	今回 3.8mといった評価にするにあたっては、水位を何を用いているかといいますと右の表の
1:19:44	1975 年の日本沿岸における津波水位 0.55 というふうでございます。この 55 センチっていうのは何かといいますと 129 ページ目に戻っていただきまして、
1:20:00	日本沿岸といったところなので函館発電所に近い函館だと 17cmアメリカは妥当 55 センチといったところなんですけど、
1:20:11	日本円までどれぐらいだといったところを考えた簡易式を用いているっていうことと、規模感っていうのは区するために鮎川ってのは用いて 3.8m程度というふうにして評価しております。ただしですね 147 ページに戻っていただきまして、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:20:28	平川舟状海盆の2層流モデルに関しての4.25とは近接しておりますので、海域活断層と同じようにちょっと記載の仕方については考えさせていただければと思います。記載する方向で考えさせていただければと思います。
1:20:45	以上です。
1:20:47	はい。規制庁なかったの方向が多分数値的にはいいと思っていて、女川の場合147ページで表自体がそもそも存在しないような状態だと思うので、地震と比較してっていう結論出す方がよかったと思うんですけども、最後のこれがわかってるんですが、
1:21:02	そのスクリーニングの手順としてはちゃんとここに載せたほうが概略値として、
1:21:08	注書きを不安を超えた上で載せたほうがよいかと思います。
1:21:13	あとすいません、ちょっと表現の関係で確認とりたいところがあった補足のほうの
1:21:19	4ページと6ページの関係で念のため確認しておきたいんですけど。
1:21:24	4ページの最初のポツの発電所周辺の会議が終わってから女川を指しているんですよ。
1:21:31	そういった6ページの説明と合わないんですけど。
1:21:36	東北電力の嘉門でございます。すいません。ご指摘ありがとうございましたそうです、女川のもを持ってきてしまってます。
1:21:45	ちょっと所周辺の海岸はですねそこすいません低下をしないと。はい、私が大きいところは以上です。
1:22:00	すいませんちょっとお待ちくださいね。
1:24:54	すみませんお待たせしましたのえっとですね、イワタですけども1. 願いがありましてですね、資料ナンバーで言うと96番ですね、-22ページ。
1:25:05	今回ですね、平沼とか守りっていうあたりですね、いわゆる連動型地震の想定波源津浪具を超えるようなですね、分析をしていただいたんですが、実はあの東通の発電所の前面を見ていただくのが若干、
1:25:21	これだけ低い波になっているので、これと、あとは特性化モデルとの関係を見たいので、この辺りを拡大増つけていただけないでしょうか。
1:25:35	サトウ区分ということで考えてございます。すいません今画面共有今イワタさんがおっしゃられたところにつきましてすいません下面共用で拡幅外させて、
1:25:45	込ま再稼働確認させていただいてるんですけど拡大していきまして、東通はこの
1:25:53	はい。
1:25:55	そのページですね。
1:25:57	その東通発電所の前面、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:26:01	もうちょっとこの資料のほうがもうちょっとシンプルでわかりやすいので補足説明資料の9ページを見ていただくと。
1:26:07	もうちょっと
1:26:08	顕著にわかりますかね。
1:26:15	そうですね。
1:26:18	わかりますね。わかりました。ここのところですね。はい。所、こちらの左のほうの22ページのほうの拡大図をつけていただいて特性化モデルとの関係がわかるようにしていただけるとありがたいと、そういうことです。
1:26:30	承知しました。
1:26:33	あともう1点ですね今回の地すべりについては、津波の波源と足し算をすることで、コメント回答の資料、資料ナンバーの97番のですね105ページ。
1:26:49	はい、このページですね、ここでですね先ほどもご説明あったんですけども、改定し、表層付近に4ヶ所書いて下に7ヶ所存在し云々かんぬんで、最後の結論はですね、一番規模の大きいものだけ捨てるんですけども、この選定の考え方をですねもうちょっとしっかり書いていただきたくて、
1:27:07	今回はまずはその改定改定ない表層付近と改定かっていうのがそれぞれあるんですけどもピックアップしたのは、表層付近だけですよねというのが一つ、その上で、大きいものだけを捨てるんですけども、これ近くにあるものですし、なぜ足さなくていいのかとかですね、その辺りがですね皆さんの考え方をもうちょっと書いていただいけませんでしょうか。
1:27:29	はい。当組合の紙でございます承知いたしました。
1:28:04	すみません、少々お待ちください。
1:30:43	。
1:30:45	お待たせしましたすみません規制庁イワタですけどもこれ今後の話で結構なんですけど資料の97ページの2ページもご覧いただくと全体概要、
1:30:55	お示しいただいてますが、
1:30:59	はい。今後ですね多分我々もその審査書を書いていったりまとめをしていく段階で、ガイドとかを見ていくとですね、これ釈迦に説法かもしれませんが三つの様式考えましょうということで、プレート間地震とかプレート内地震とか内陸地殻内地震、またその他の地震ですね。
1:31:14	その他の津波っていうのはそういう整理学でですね、それにそれぞれについての審査結果を変えていくわけですが、これちょっとごちゃっとしていてですねどれがプレート間になるかももちろん見ればわかるんですけども、もうちょっとですね外ガイドに従ってこう整理、整理をしていただく必要があるんじゃないかなということと、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:31:32	あとはすみませんこれ名前の問題なので、もしかしたら定義のをちゃんとつけていただければいいのかもしれませんが、いわゆるプレート間地震の中にまたプレート間地震があったり、津波地震というちょっと日本語としてわからない難しいようなですねもちろん資料見ればわかるんですけども、これは定義の問題なので、
1:31:51	ある程度わかるような形ですね、これ一体どの
1:31:55	何ていうかね津波のカテゴリーに分類されて、その中のなんですよというのはですね、わかるような形ですね、少し整理をすることを考えておいていただけませんかでしょうか。
1:32:06	はい、東北電力の釜田でございます。戸籍の出身承知しましたすみませんあの前回まではそういった隔離とかそういったところを意識して作っておりました。前回、今回はですねこの資料構成を3部作って言ったふうにしてしまったので、それでこういうふうなたてつけになってしまいましたので、
1:32:23	御指摘踏まえまして再整理させていただきます。
1:32:30	はい、よろしくお願いします。
1:32:33	御サトウですけども、7月9日の審査会合資料の基準津波評価フローってこのを見ると確かにかもさおっしゃるように、そういう整理はされているので、今回ちょっとコメント回答ということで少しうん。
1:32:49	とラフなフローチャートにしたのかなというふうに思いますのでそこら辺はちょっと今のコメントを踏まえて、修正をしてください。
1:33:15	すみませんいすか聞こえてますか。
1:33:17	すみません、編集措置ましたありがとうございます。
1:33:27	ほかに何かありますか。
1:33:32	せつかくです。
1:33:49	すみません規制庁イワタですけども、こちらからのですね確認事項大体以上になりますが、そちらから何かありますか。
1:34:02	はい。
1:34:04	特段ございません。
1:34:07	はい、わかりました。規制庁イワタですけどもそうするとですね次回の審査会合に向けて冒頭申し上げた通りコメント回答とですねいわゆるその他の津波についてのセット版をですね、一連の一つの資料にまとめていただいて審査会合用の資料を準備していただきたいと思います。
1:34:29	はい。承知いたしました。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:34:32	あと資料ができ上がって準備の状況も含めてですねでき上がりそうになりましたら連絡をいただければですね、こちらですねそれに合わせてですね、審査会合の予定を立てていきたいと思っておりますのでよろしく申し上げます。
1:34:45	はい。ちなみに準備資料のまず準備がどのぐらいかかりますか。
1:35:00	スパイのチェック等も踏まえまして、
1:35:05	23 週間。
1:35:06	とらえていいですか。
1:35:10	10、11 月の
1:35:21	はい。
1:35:22	あと、
1:35:24	11 月の 8 日の週ぐらいということですか。
1:35:30	はい。
1:35:33	はい、承知しました 11 月 7 日の週に補欠できるように準備進めます。
1:35:38	すみません 8 日の週ですかというそのぐらいまでかかりますかと聞いたんですけれどもちょっと背景の議論の中とかですね実際にはどのぐらいの目途があるのかというのを少しMACE教えていただけますか。はい、気象庁お待ちください。
1:36:00	すみません規制庁のイワタですわかりましたの後ですね事務的にご連絡いただけますかいつぐらいにできるかということと、あともう 1 点確認したいんですけれども当日、この路線御説明にはどのぐらいの時間を考えていらっしゃいますか。
1:36:14	あと、
1:36:15	はい、東北電力の嘉門でございます。本日の御説明もですね駆け足で 60 分を要しましたので、できれば 60 分いただければ助かります。
1:36:31	はい。ちょっとですね、ナガイ気がするので、迷いうまいことこれまでにすでに御説明いただいているところは飛ばしていただくということで構いませんので、45 分ぐらいにコンパクトにまとめることができますか。
1:36:43	はい。そうしましたら、45 分にまとめます。はい。それではよろしくお願いたしますまず資料のでき上がりがいつになるかということをご連絡いただいた上で審査会合の日程をセットしたいと思います。本件に関してですね、特に再度ヒアリングということは考えておりませんので、以上です。
1:37:09	じゃあ東北電力さんよろしいですか。特になければ以上にしますが、
1:37:15	はい。
1:37:17	結構でございます。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:37:20	はい、それでは本日のヒアリング営業にしたいと思います。お疲れ様でございました。
---------	---

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。